

普及課だより

2022. 1 月号

No.57



愛知県東三河農林水産事務所農業改良普及課
(東三河農業普及指導センター)

〒440-0833 豊橋市飯村町高山 11-40
TEL : (0532)63-3529 FAX : (0532)63-7023
Web : <http://www.pref.aichi.jp/nourin-higashimikawa/higashimikawa-fukyu/>

明けましておめでとうございます。

課長 箕浦 正人



新年、明けましておめでとうございます。

平素は協同農業普及事業の推進に格別の御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。一昨年からの新型コロナウイルスによる消費減退により、農業全般に大きな影響が続いています。燃料、資材、肥料などの価格高騰、米価等の下落により農業経営に厳しさが増す一方で、将来を見据え、安心して暮らせる環境と調和した農業技術の体系化が求められています。

農業改良普及課は、今年も東三河地域農業の発展に向けて、資材高騰や販売価格の下落に対抗できる競争力ある基幹経営体の育成に取り組むとともに、化学農薬や化学肥料の使用量低減、総合的病害虫・雑草管理（IPM）技術など持続可能な開発目標に沿った地域や環境に優しい栽培技術の普及を進めてまいります。

一日も早いコロナの終息と、皆様の御健康をお祈り申し上げます。

令和3年度 農業経営士・農村生活アドバイザー・青年農業士の認定者紹介

令和3年11月30日（火）に愛知県庁にて三士認定式が開催され、管内から新たに15名の方が認定されました。

農業経営士

【豊橋市】

鷺坂 充康（露地野菜）
伊藤 充治（施設野菜）

【豊川市】

萩原 敏光（施設野菜）
牧野 文夫（花き）
加藤 徳男（施設野菜）

【蒲郡市】

桑原 健太郎（花き）
尾崎 裕幸（果樹）



農村生活アドバイザー

【豊橋市】

岡本 尚子（水田作、露地野菜）
鈴木 美穂子（露地野菜）
浜田 亜紀子（施設野菜）

【豊川市】

竹生 千明（施設野菜）

【蒲郡市】

小田 恵美（果樹）



青年農業士

【豊橋市】

山本 航平（露地野菜）

【豊川市】

岡田 英将（施設野菜）

【蒲郡市】

柴田 慈土（花野菜苗）



↑ 三士認定式にて知事と認定者
(上から農業経営士、農村生活アドバイザー、
青年農業士)

管内農業の話題

J Aひまわりで「あかね夕焼け姫」が販売されました

J Aひまわりのオリジナルブランド「あかね夕焼け姫」がJ A直売所で販売されました。J Aひまわりみかん部会は、愛知県育成品種「夕焼け姫」を平成 24 年から他産地に先駆けて栽培しており、昨年からマルチ栽培（樹の下にシートを引き、雨水を遮断する）によって糖度 12 度以上をクリアした高品質な果実を「あかね夕焼け姫」として販売しています。今年の出荷開始時には生産者の圃場でマスコミ

取材が行われ、生産者が「たくさんの人に食べていただきたい」とPRしました。



農業改良普及課は、同部会に対して「夕焼け姫」導「あかね夕焼け姫」出荷PRの様子入当初から高品質栽培技術の確立に向けた指導を行っており、今後も継続して支援していきます。

豊橋4Hクラブ、野菜くじで農業PR

11月27日(土)に行われた「emCAMPUS」のオープニングイベントに、豊橋4Hクラブが「野菜くじ」を出店しました。「野菜くじ」はクラブ員が生産した農産物を景品にした、くじ引き形式の出し物です。

季節物であるキャベツやイチゴ、新米のほか、スーパーでは少し珍しいケールや青パパイヤなども景品に並びました。これらのあま



「野菜くじ」の様子
り馴染みのない農産物が当たったお客さんには、クラブ員から直接特徴や食べ方を説明しました。希望者にはその場で直売し、新鮮な野菜がお値打ちに購入できると好評でした。これら地域イベントを通して、豊橋市の農産物を一般市民にPRすることができました。

J Aひまわりバラ部会が40周年！

J Aひまわりバラ部会は昭和 56 年に発足し、今年で 40 周年となりました。全国に先駆けて共同選花・共同販売に取り組み、ウォーターバケットによる縦箱出荷方式などを確立してきました。現在も、出荷物すべての開封検査を行うなど、高品質な切花を安定出荷する産地として全国の市場から高い評価を得ています。農業改良普及課は、病虫害診断や毎月行われる部会会議で栽培技術情報の提供など、個々の農家の増収や経営改善、産地の維持・発展のための支援を行っています。



評価の高い「J Aひまわりのバラ」

集落営農組織がスクミリングガイの総合防除に取り組む

豊川市長沢町の「ファーム長沢の里」は令和元年に発足した集落営農組織です。全量有機質肥料の減農薬栽培米「音羽米」を栽培していますが、スクミリングガイの被害などにより、稲の収量が少ないことが問題でした。昨年、その対策として浅水管理と薬剤防除を組み合わせた総合防除に取り組みました。その結果、被害を対策前に比べて21%減少させることができました。また、冬季耕耘の現地試験により、越冬貝を60%駆除できることが確認できました。これらの取組により収量が対策前に比べて17%向上しました。今後は、スクミリングガイ対策に加えて、雑草防除や肥培管理を改善し、稲の収量向上対策に取り組んでいきます。

